

町村週報

(町村の購読料は会費)
の中に含まれております

3164号

毎週月曜日発行

発行所 全国町村会 〒100-0014 東京都千代田区永田町1丁目11番35号：電話03-3581-0486 FAX03-3580-5955

発行人 武居丈二：定価1部40円・年間1,500円(税、送料含む) 振替口座00110-8-47697

<http://www.zck.or.jp>



佐田岬灯台 (愛媛県伊方町)

もくじ

- ● ● 随 情 フォーラム 想 報
- ● ● 政 情 活 策 報 動

- 荒木会長がワクチン接種の円滑な実施に向けて河野大臣と意見交換……………(2)
- 新任都道府県町村会長の略歴……………(3)
- 「地方創生」に向けたSDGsの推進について③……………(4)
- 「令和3年度SDGs 未来都市を選定しました」……………(8)
- 「Go! Beyond」今を乗り越え、その先へ」II 福島県川内村……………(12)
- 「町村」ご当地キャラじまん……………(14)
- 「ほどよい！田舎」を前進させます……………(14)
- 岡山県勝央町長 水嶋 淳治……………(14)

コラム

「地域デビュー」をすべきでない!?

作新学院大学名誉教授・とちぎ協働デザインリーグ会員 橋立 達夫

最近、某週刊誌の記事に、高齢者が避けるべき活動として「住み慣れた自宅を売却する」、「退職金を投資に回す」、「妻の死後に再婚する」などと並んで、「地域デビュー」が挙げられていた。地域デビューすれば、無償でやたらと忙しい仕事が増え、その上、何かと責任を問われたり、時には非難を浴びたりで、ろくなことはないというのである。実際、全国的に自治会に加入しないという人が増えている。その主な理由が「役員になるのは嫌だから」である。

しかし、たとえば代表的な地域ボランティア組織である社会福祉協議会(以下「社協」)地区部会は、「地域住民同士が、自分たちの住んでいる地域の生活・福祉課題や困りごとを自分たち自身の問題と受け止め、関係機関や専門機関と連携・協働しながら解決に向けて協議し、『誰もが安心して共に暮らせる福祉のまちづくり』を目指す(岡山県社会福祉協議会ホームページより)」という使命を担っている。自治会もほぼ同様である。こうした住民の自主的な互助活動の必要性は広がっており、さまざまなサービス活動が展開されて

いるのである。

自治会や社協地区部会の活動は、自治会の構成員から集められた会費や募金で成り立っている。公的な資金助成、補助もあるが、それらもほとんど、もともと自治会で集められた資金が、一旦、市町村や市町村社協に入り、還流してきたものである。自治会に入らない人たちは、こうした負担をせずに、自治会その他の地域ボランティア組織が行っているサービスを享受していることになる。

今、多くの地域ボランティア組織では、メンバーの高齢化が進んでいることもあって、慢性的なマンパワーの不足に陥っている。とくにIT技術に長けた若い世代(60代でも十分若いのです)の参入は渴望されている。地域デビューを厭わずに、一緒に暮らしたいのある地域をつくって行くのではないか。地域の中の人のつながりが、地域の新しい活力の源になる。待っているのは決して面倒な仕事ばかりではない。そこには、サービスを受ける側、サービスをする側という壁を越えた笑顔の交歓がある。自己実現のチャンスも広がっている。

写真キャプション

日本一細長い佐田岬半島先端の岸壁にそびえ立つ白亜の灯台。四国の最西端にあり、晴れた日には豊予海峡を隔てた九州を遠望できる。夕暮れになると海に溶けていく夕日を見ることができ、日中とは違ったローケーションに早変わり。大自然に囲まれた遊歩道は、木漏れ日を受けながら樹生林を抜け、潮風を受けながら青い海を眼下に見下ろすことができる。

活 動

全国町村会

荒木会長がワクチン接種の円滑な実施に向けて河野大臣と意見交換

荒木泰臣全国町村会長（熊本県嘉島町長）は、6月18日、河野太郎内閣府特命担当大臣（新型コロナウイルスワクチン接種担当）、藤井比早之内閣府副大臣、山本博司厚生労働副大臣兼内閣府副大臣と、新型コロナウイルス接種について意見交換（WEB会議）を行った。



はじめに、河野大臣から海外渡航者向けの「新型コロナウイルス接種証明」の発行について説明があり、発行の根拠となるワクチン接種記録システム（VRS）への入力や旅券番号の入力等、自治体が行う業務に関して協力要請があった。

また、ワクチンの配分については、ファイザー社・モデルナ社を合わせたワクチン総量は希望する国民全員接種分を確保しているとした上で、当面ファイザー社ワクチンの供給量が減少していく中で、都道府県への配分は、①第10クール（7月19日の週及び26日の週に配送）の配分に関しては接種が進んでいる都道府県に優先配分する、②接種の進捗状況はVRSの接種実績によって判断する、③各町村は接種実績を

迅速に入力いただきたい、また、④システム入力にアルバイト等外部人材を活用する際の経費は、「新型コロナウイルスワクチン接種体制確保事業」で全額国が措置するので積極的に活用していただきたい」と方針を説明した。

そのほか、大企業がない自治体では職域接種への申請が進んでいない現状を示し、中小企業の従業員を集めても千人に満たない場合は、商工会議所・商工会と自治体が話し合い、自治体の集団接種会場の中に中小企業の枠を作っていたいただきたいとの要請があった。

荒木会長は、「現在、町村では、全力でワクチン接種に取り組んでおり、医師・看護師が十分でない中、都道府県や医療関係者のご支援もいただきながら、高齢者接種については、早い町村では終了しつつあり、その後順次切れ目なく64歳以下の接種につなげていけるよう、接種券の配布を



▲意見を述べる荒木会長

はじめ体制を整えているところである」と現状を伝え、①ワクチンの配分について、引き続きワクチン総量をしっかりと確保していただき、各町村が策定する接種計画に基づいて速やかに希望者が接種を完了できるように、地域の実情に合わせた必要量が現場に行きわたるための適切なワクチン配分をお願いする。

その際、具体的な配分時期及び配分量等、接種の実施に必要な情報を町村に可能な限り迅速に提供していただきたい、②VRSに入力された数値でワクチンの割り当てを判断するという方針について、接種自体は進んでいるにもかかわらずVRSへの入力が遅れたために配分量が少なくなってしまうということは避けたい。接種完了後、できるだけ速やか

活 動

にVRSに入力することの重要性は十分に認識している一方で、小規模町村では少ない職員数で多くの業務を抱え、入力業務に専念できず遅れがちになってしまう実態もあり、一生懸命努力しながらも現場業務に大きな負荷がかかっている現状もご理解いただきたい、③大規模接種会場や職域等の集団接種で使われているモデルナワクチンについて、7月以降のファイザーワクチンの供給量が落ちるため、各自治体の集団接種会場での使用も含め、ファイザー・モデルナの全国的な配分調整等の対処方針も検討する必要があると考えているので、接種のスピードを落とさないためにも、早急に方針を示していただきたい」と強調、国の対応を強く求めた。

また、集団接種会場における暑さ対策が必要となるエアコン等の設置費用に係る財政支援や、12歳以上の児童生徒への接種に関する国の方針の早期提示を要望した。加えて、集団接種会場に来られなかった方が近隣市町村で接種となった場合における（特に高齢者の）送迎等の対応や、予約センター等の職員がクレーム対応等で辞めた後の人員確保の難しさなど、町村現場が抱えている課題や厳しい状況を伝えた。

荒木会長の発言を受け、河野大臣は、今後もワクチン配分や供給量に関する情報提供に努めていくとの姿勢を示すとともに、接種実績はVRSの数値でしか判断できないため、アルバイト等も活用して是非とも入力を進めていただきたいと回答。また、児童生徒への接種については、近日中に文科省、厚労省から方針が示されることや、集団接種会場における暑さ対策・集団接種会場に来られなかった方への近隣での接

新任都道府県町村会長の略歴

神奈川県町村会は令和3年5月18日の臨時総会で次の通り会長を選出した。（6月12日就任）

神奈川県町村会長
足柄上郡山北町
あしがらかみ やまた

湯川 裕司
ゆかわ ゆうじ
昭和27年生



【役場住所】足柄上郡山北町山北1

301-14

【町村長としての当選回数】3回

種対応等については今後検討すると述べ、意見交換を終了した。

◎ 町村週報ご購読のご案内 ◎

「町村週報」を毎月ご自宅や職場にお届けいたします。ご購入を希望される方は、はがき、FAXまたはEメール (kouhou@zck.or.jp) にて、全国町村会広報部までお申し込み下さい。

★年間購読料1,500円（送料込み）

★請求書を送付いたしますので、折り返しお振り込み下さい。

【町村長に就任するまでの経歴】▽平成15年山北町議会議員▽平成22年山北町長

【町村会関係の経歴】▽平成25年6月神奈川県町村会監事▽平成26年12月同副会長

【主な業績】▽定住促進住宅「サンライズやまきた」整備事業▽新東名高速道路（仮称）山北スマートIC整備事業▽小中学校統合推進事業▽やまきたこども園整備事業▽鹿島山北高等学校の誘致▽森林ふれあい健康セラピー推進事業▽平山工業団地への企業誘致▽丸山住宅用地分譲事業▽D52蒸気機関車の動態化▽丹沢湖湖岸利用事業（SUPの普及啓発）

【趣味】読書・映画鑑賞

車両共済(保険)のご案内

この車両共済(保険)は、町村生協の自動車共済で補償する対人賠償、対物賠償、限定搭乗者傷害等に加え「ご自身のおクルマの補償(車両保険)」を追加する制度です。お車が衝突した場合や台風・いたずら・盗難など偶然な事故で損害を被ったときに、共済(保険)金をお支払いします。

●お見積りのご請求・お申込み・お問い合わせなどは、下記までご連絡ください●

株式会社 千里 (取扱代理店)

〒100-0014 東京都千代田区永田町1-11-32 全国町村会館西館内
●ホームページアドレス <http://www.chisato-ag.co.jp>

TEL 0120-731-087 FAX 03-3519-7325

お電話の際には、車検証をお手元にご用意ください

(受付時間：祝日、年末年始を除く月～金 午前9時30分～午後5時)

- 「車両共済(保険)制度」は、全国町村職員生活協同組合と損害保険ジャパン株式会社とが集団契約を締結し、実施しているものです。
 - 集団扱としてご契約いただけるのは、保険契約者および被保険者が損保ジャパンの定める条件を満たす場合のみとなります。
- このご案内は概要を説明したものです。詳細については、取扱代理店(千里)までお問い合わせください。

(車両保険引受保険会社) 損害保険ジャパン株式会社

SJ21-00628 (2021.4.19作成)

「地方創生に向けたSDGsの推進について」③

～令和3年度SDGs未来都市を選定しました～

内閣府地方創生推進事務局 安藤 裕之

はじめに

以前掲載した「地方創生に向けたSDGsの推進について」（2021年1月11日・3145号）（2月1日・3147号）の第3弾として、第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」（2020改訂版）や「SDGsアクションプラン2021」で位置づけられた、「SDGs未来都市」の取組について紹介します。

SDGs未来都市の選定

令和2年12月21日の第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」（2020改訂版）閣議決定を受け、本年1月19日に坂本地方創生担当大臣の閣議後会見において、令和3年度SDGs未来都市募集開始が発表されました。

今回の募集においては、これまでの評価視点（自律的好循環の形成など）に加え、菅総理の「2050年カーボンニュートラル」の宣言を踏まえ、SDGs達成へ向けた取組の推進による脱炭素社会の実現を目指すべく、選定基準に脱炭素の視点を加え、選定を進めてまいりました。

募集開始

後、全国の自治体から53の提案があり、有識者による書面審査、オンラインでのヒアリング審査を経て、5月21日にSDGs未来都市を31都市、自治体SDGsモデル事業を10事業選定し、オンラインによるSDGs未来都市選定証の授与式を行いました。

資料1

令和3年度 SDGs未来都市 選定都市一覧

都道府県	選定都市名	都道府県	選定都市名	都道府県	選定都市名
北海道	上士幌町	新潟県	妙高市	京都府	京都市
岩手県	一関市	福井県	★福井県	京都府	京丹後市
山形県	米沢市	長野県	長野市	大阪府	能勢町
福島県	福島市	長野県	伊那市	兵庫県	姫路市
茨城県	境町	岐阜県	岐阜市	兵庫県	西脇市
群馬県	★群馬県	岐阜県	高山市	鳥取県	鳥取市
埼玉県	★埼玉県	岐阜県	美濃加茂市	愛媛県	西条市
千葉県	市原市	静岡県	富士宮市	熊本県	菊池市
東京都	墨田区	愛知県	小牧市	熊本県	山都町
	江戸川区	愛知県	知立市	沖縄県	★沖縄県
神奈川県	松田町				

・都道府県・市区町村コード順
・黄色網掛けは「自治体SDGsモデル事業」選定都市
・★はSDGs未来都市のうち都道府県

SDGs未来都市とは

「SDGs未来都市」とは、SDGs達成に貢献する優れた取組と認められる提案をした都市・地域のこ

とです。SDGsの理念に沿った統合的取組を推進しようとする都市・地域の中から、経済・社会・環境の三側面における新しい価値創出を通して、持続可能な開発を実現するポテンシャルが高い都市・地域を「S

政 策

町、熊本県山都町の5つの町を選定しました。上士幌町、山都町においては自治体SDGsモデル事業にも選定しております。

昨今は、新型コロナウイルス感染症対策に多忙を極めたことや、大規模自治体と比較すると人手不足であることが多いなかで、特に小規模自治体においてSDGs未来都市の提案を検討し、作り上げることが容易ではなかったと推察されます。しかしながら、首長の強力なリーダーシップのもと、SDGsを共通言語とした庁内横断的な体制が整えられ、地域の課題や資源を十分に認識・活用し、持続可能な地域を作り上げていこうとする力強い提案が寄せられたことは、他の小規模自治体の模範であり、良い刺激となるものと考えられます。

自治体SDGsモデル事例

今年度自治体SDGsモデル事業に選定した提案をご紹介します。

上士幌町では、次世代高度技術の社会実装によるスマートタウンの構築を進めながら、地域住民の生活サポートや移動の利便性向上、全世代型のコミュニケーションを活発化させることで、だれもが生涯活躍でき

るまちづくりを提案されました。さらに、再生可能エネルギーの地産地消、EV自動車による空港直行便の導入で関係人口を創出、地域経済の活性化につながる取組を掲げています。

山都町では、化学合成農薬・化学肥料に依存しないカーボンニュートラルな有機農業を推進し、付加価値の高い有機農業やジビエの利用推進などの展開を図り、『山都暮らしブランド』の確立を目指す提案がされました。美しい農村景観を次世代へ継承し、将来にわたって豊かな自然を守る持続可能なまちの実現を目指しています。

このように、地域の現状や課題を踏まえて、目指すべき姿を描き、その実現に向け、経済・社会・環境の各側面へ好影響を与える具体的な取組を検討されている、非常に先導的な提案といえます。

オンラインによる選定証授与式

過去、平成30、令和元年度の選定においては首相官邸にて、内閣総理大臣ほか地方創生担当大臣などの政府関係者が出席し、選定証の授与や各都市代表者との記念撮影を行いました。令和2年度は新型コロナウイルス

資料4

令和3年度「SDGs未来都市」選定証授与式の様子



政 策

ルス感染症予防のため、残念ながら、対面による授与式は開催できず、選定証とともに内閣総理大臣からの祝意メッセージを送付しました。

今年度は、内閣府にてオンラインでの選定証授与式を行いました。授与式では、菅内閣総理大臣からのメッセージ紹介と坂本地方創生担当大臣のビデオメッセージの上映を実施しました。また、選定都市を代表して、墨田区長、上士幌町長に、SDGs 未来都市としての意気込みを表明していただきました。（資料4）

内閣府によるサポート

内閣府では、自治体へのサポートを充実させるため、昨年度より『地方創生SDGs オンラインセミナー』、『地方創生SDGs オンライン相談会』といったオンラインによる取組を始めました。

『地方創生SDGs オンラインセミナー』は毎月1回、意識啓発や自治体間連携などのテーマを定めて、SDGs 未来都市の担当者からの取組事例の紹介を行うものです。昨年度は7回開催し、延べ約450自治体の方々が参加されました。このオンラインセミナーの様子は、内

閣府のHPでも視聴することができます。

また『オンライン相談会』では、地方創生SDGs 官民連携プラットフォームの会員となっている自治体を対象に、自治体の取組状況に合った4つのコースで相談を受け付けてきました。「SDGs」という言葉は聞いたことがあるが、自治体の取組とどう関わるものかわからない」といった基礎的なものから、「SDGs 未来都市への応募を考えているが、特に留意すべき点や全体の方向性についてアドバイスをいただきたい」といった具体的なもので、さまざまな相談が寄せられ、52の自治体が相談会に参加されました。また、今回選定されたSDGs 未来都市のうち20都市は、この相談会に参加されており、提案書作成等に関するアドバイスを実施してきました。

参加された自治体のみならず非常に好評をいただきましたので、本年度も継続して実施する予定としております。随時、メール等にて情報提供させていただきますので、ぜひ積極的にご活用ください。これらの取組が、貴自治体の地方創生に向けた取組の一助になれば幸いです。

地方創生SDGs 官民連携
PF加入の推奨

内閣府では、SDGsの国内実施を促進し、より一層の地方創生につながることを目的に、広範なステークホルダーとのパートナーシップを深める官民連携の場として、2018年8月31日に地方創生SDGs 官民連携プラットフォームを設置しました。このプラットフォームは、地方公共団体・関係省庁・民間企業等で構成され、907の地方公共団体を含む5423団体(5月31日時点)と数多くの方々にご参加いただいています。SDGsの達成と持続可能なまちづくりによる地方創生の実現、官民連携による具体的なプロジェクトの創出を目指しており、地方創生SDGsに関する情報収集・交換や官民連携のマッチング等をサポートしています。未加入の自治体におかれましては、ぜひご加入をお願いいたします。

ご紹介しました情報については、内閣府ホームページにて公開しておりますのでぜひ一度ご覧ください。みなさまと一緒に地方創生SDGsの達成に向けて歩んでいければと思いますので、いつでもご相談ください。

(参考)

2021年度SDGs 未来都市及び自治体SDGsモデル事業の選定について

https://www.chisou.go.jp/tiki/kankyo/teian/sdgs_2021sender.html

SDGs 未来都市の取組概要一覧
https://www.chisou.go.jp/tiki/kankyo/pdf/sdgs_miratoshil_gaiyoujichian.pdf

動画「地方創生SDGs オンラインセミナー」

<https://future-city.go.jp/sdgs/>

地方創生SDGs 官民連携プラットフォーム加入申し込み
<https://future-city.go.jp/platform/regist/>

問い合わせ先

内閣府地方創生推進事務局

電話 03-5551-0199

メール g.Local-governments-SDGs@cao.go.jp

現地レポート

町村独自のまちづくり

今を乗り越え、その先へ
Go Beyond!

「GO! Beyond
今を乗り越え、その先へ」

ワイン用ぶどう畑「高田島ワイナード」

令和3年5月に完成した「かわうちワイナリー」



福島県

かわうち
川内村

〇はじめに

川内村は、福島県浜通りに位置し、総面積は19,738ha、うち約17,400haが林野で占められ、美しい自然と豊かな森林資源に恵まれ、震災前3,028人が暮らしていました。

平成23年3月11日の東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故発災以降、「一歩踏み出せば奇跡は起こる」と信じ、当村の復興を進めてきました。お陰様で約8割の村民が戻り、愛おしい日常を取り戻しつつあります。令和元年には村制施行130周年を迎えることができ、令和3年3月には、復興の新たなステージへの決意を示す「輝村宣言」を発表致しました。

これまでご支援をいただきましたすべての自治体、団体、個人様に紙面をお借りし心より感謝申し上げます。

自然豊かな山間に抱かれた当村は、あの震災・原発事故以来「被災地」と呼ばれるようになりました。事故直後、村民は全村避難を余儀なくされ、避難所において、先行きが不透明な中、漠然とした喪失感と閉塞感で、心身共に極度のストレスを受けました。さらに、目に見えない放射能が、補償や賠償金の多寡等で格差を生じさせ、住民感情を複雑にし、さまざまな軋轢を生じさせ、人の生き方や判断にもずけずけと土足で入り込み、住民の心と身体を痛めつけてきました。

平成26年6月、一部残っていた居住制限区域が解除され、村の避難指示区域は全て無くなりましたが、すぐに住民が戻るものではなく、あらためて帰還促進というオペレーションの難しさを感じています。



フォーラム

○原発事故の影響

地震の被害は少なかった当村ですが、放射性物質の汚染を踏まえ、3月15日私自身が全村避難を決断し、防災行政無線で呼びかけ、翌日早朝から郡山市の「ビックパレットふくしま」に避難しました。当時は、富岡町民約8,000人が当村に避難していたため、富岡町と一緒に避難となりました。

長期の避難生活による影響は計り知れないものがありました。体調を崩す村民が続出し、特に高齢者においては入院や要介護度の重症化に伴う施設入



川内村村民体育センター避難所

所が増えました。震災による直接死はゼロですが、避難途中や入院先で亡くなった関連死が100名を超えました。放射能のリスクと避難のリスクが同時並行的かつ多発的に押し寄せてきました。

農林畜産業は廃業及び休業に追い込まれ、子どもたちの教育環境も激変しました。働く場所さえ失われ、県外避難により家族が離ればなれになり、地域のコミュニティも分断されてしまいました。原発事故がもたらした最大の被害は、住民間の軋轢と人間の尊厳の喪失、たったのかもしれない。

○帰村宣言

未曾有の環境変化の中、当村の放射線量は、地区により比較的高い線量を示すところもありましたが、全体的には低いことが判明し、除染を実施することで戻れる環境が整つと判断し、平成23年11月には、保育園・小中学校・診療所等の公共施設の除染を開始しました。加えて原発の水素爆発の危険性が低くなったこともあり、平成24年1月「戻れる人から戻る、心配な人はもう少し様子を見てから戻る」ことで帰村宣言を行い、同年4月、一年ぶりに行政機能を役場に返し、除染やインフラ整備に取り組みました。

帰村に向けた住民懇談会では、除染

◀帰村宣言



雇用、医療介護、教育、買物交通、補償、賠償など戻れない理由を訴える声が噴出しましたが、その中でた一つ共通していたこと、それは一日も早く我が家に戻りたい、当たり前の日常を回復してほしいという住民の切なる願いでした。その思いにこたえるため、速やかに役場での業務を再開したところ

○震災原発事故からの復旧・復興

単に震災前の状態に戻すのではなく、村の生き残りをかけ、創造的・未

な指針として、第四次総合計画（令和25年3月）を策定しました。また、当村が、生活環境や雇用など村民の帰村を促進するための復興事業を先行的に進めていくことにより、双葉地方復興のフロントランナーとしての役割を担う、そのことも村づくりの指針と位置づけました。

○除染

除染は、帰村に向けて、真っ先に取り組むべきものだと考えていました。空間線量の軽減と継続的モニタリングは、村民が村に戻り、放射能の脅威から解放され、安心して暮らすために必要不可欠でした。先ず平成23年9月、緊急時避難準備区域内の除染目標を空間線量率 $0.23\mu\text{Sv/h}$ 以下に設定し、村内1、070世帯の宅地除染を実施し、平成25年度末までにすべての住宅除染を完了させました。さらに、農地、道路、森林へと対象範囲を広げながら生活空間の除染を進めるとともに、村内10か所に、除染廃棄物の一時保管場所である仮置場を整備しました。

除染が完了した世帯には、線量調査を実施するとともに、放射線を可視化できるガンマカメラによる撮影を行い、線量調査結果と写真を一世帯ずつ配布し、データに基づく生活空間の安心・安全を提供しました。宅地除染は、



▲除染作業の様子

平成26年3月に全世帯が完了しております。

○雇用の創出・インフラ整備

安全に住める環境を確保したうえで、これまで以上に不便なく暮らせるインフラ整備が必要となります。当面の暮らしの利便性を取り戻しつつ、隣接するいわき市・田村市・小野町などとの連携の下で、日々の暮らしを支える住宅、雇用、買い物、医療、教育(高校通学を含む)、交通アクセス、介護・福祉、ごみ・下水汚泥処理、葬祭場などの環境整備を進めていくこととしました。

住環境整備では、震災前の村営住宅が36戸と新たに住宅を求めるニーズに

比して少なく、住宅不足の解消が課題でした。そこで村営アパート、災害公営住宅、若者定住住宅、定住促進住宅及び子育て支援住宅等、合わせて157戸を整備しました。さらに、民間アパート建設のための支援事業を行い20戸の民間アパートを整備しましたが、すぐに空きがなくなり、現在でも慢性的な住宅不足が続いている状況であり、今後取り組むべき課題となっています。

雇用の場の創出として、国の福島再生加速化交付金事業を活用し、工業団地造成事業を進め、総面積15ha、7区画が平成29年7月に完成しましたが、内3区画に企業が進出してまいります。



▶町分住宅

また、村内他所にも金属加工金型工場、蓄光タイル製造工場、チップ製材工場を誘致し、併せて自前で完全密閉型水耕栽培の植物工場を立ち上げました。震災前より働く場所の選択肢が増え、新たな雇用が生まれています。

生活に密着したインフラ整備については、平成28年に複合商業施設「YOUTASHI」がオープンし、身近な所で買い物ができるようになりました。

医療機関が遠くなったため、震災前の内科・歯科に加え、平成24年度から眼科・整形外科・心療内科・消化器内科など、震災前よりも診療科目を増やしました。



▶工業団地

平成27年には、新たに特別養護老人ホームかわうちがオープンしました。

村内で葬式等を挙げられるよう、平成26年3月に葬祭センター「ふるさと」を整備しました。

村民の体力維持向上のための施設として、平成28年には温水の「もりたろうプール」がオープンしました。

震災前から川内村の観光施設であった「いわなの郷」、「かわうちの湯」も改装・改修のうえ再開し、多くの利用者で賑わいを取り戻しております。

さらに、タイ国のコーヒーチェーン店Amazonの日本第1号店がオープンし、村民の憩いの場となっております。



▶マラソン大会

フォーラム



▲義務教育学校

います。

避難で中断していたイベントについては、平成24年に、詩人草野心平を偲ぶ「天山まつり」を2年ぶりに天山水庫で実施し、「かわうち復興祭」及び「かわうちBON・DANCE」を開催しました。

さらに、小学生の発案で平成28年4月30日に開催した第1回川内の郷かえるマラソン大会は、川内優勝選手をゲストランナーに迎え、北海道から沖縄県まで全国33都道府県から1、188名が参加、現在も継続して行われています。イベントの復活開催は、賑わいの創出と交流人口増に繋がるきっかけになりました。

教育環境の整備では、令和3年4月

5日に、かわうち保育園を併設した義務教育学校「川内小中学校」が開校し、新たな教育環境がスタートしました。今後、川内ならではの教育に力を注いでまいります。

○新たな産業の創出

基幹産業である農林畜産業では、食用ぶどうの栽培、西洋野菜栽培やエゴマの生産販売など、新たな内発的産業の動きも出てきております。

昨年には、いちご栽培に着手し、年明けから出荷も始まっております。ワイン用ブドウは、5年前に定植し



▶いちご栽培施設

た苗木から、昨年初めて収穫・委託醸造を行い、令和3年4月川内産ブドウを使用したワイン「シャルドネ2020」が完成しました。現在、村内のヴィンヤードに醸造施設を建設中で、今秋にはワイン醸造を開始し、来春には、川内産ワインと表示されたボトルが店頭に並ぶことを楽しみにしております。

○移住定住への取組

新たなステージを迎え、帰還促進と復興をさらに進めながら、交流人口を拡大し、定住人口を増やすための施策に取り組んでいます。

移住支援については、結婚祝金、出産祝金、保育料給食費無料、医療費無料(18歳までの児童対象)、新築住宅建設費補助(300万円)、ひとり親移住奨励金を行っております。

○復興の先の課題

現在も避難している村民の大部分は子どもたちがいる子育て世帯です。若い世帯の帰村が進んでいないことで、コミュニティを維持していくことが困難な地域も出てきています。震災前よりも行政依存度が高まり、村民の自立を促すことの大変さを感じています。さらに、国の復興予算が減少して

いく中で、景気の反動減等の課題が顕在化してきております。

○おわりに

復興は、一言で言えば、生きがいや誇りを取り戻すことだと考えています。震災前から農山村の空洞化が叫ばれていましたが、原発事故を契機に耕作をあきらめる農家が層増えています。その結果人が住まなくなれば土地が荒れ、地域の自治が崩壊していきま

す。農山村で生活する意義や価値観が見いだせなくなり、誇りまで失っているのではないかと危惧しています。これまでさまざま不条理や軋轢、ジレンマ、不安や不満、不信感と戦ってきました。いつも背中を押されているような緊張感を感じてきました。しかし、それは私にとってエキサイティングな時間だったのかもしれない。これまでの経験を活かし、村民一人ひとりが希望や生きがい、川内プライドを持ちながら暮らすことのできる村、多くの人々を惹きつけるような、特に、子どもたち、女性、若い人たちが住みたいと思うような、「輝く村」づくりに取り組んでいく、その決意を新たにしているところであります。

川内村長 遠藤 雄幸

町村

ご当地キャラじまん

Vol.74

特産品だけじゃない!

文化・歴史を身にまとして観光大使!!

ご当地自慢の美味しいものや伝統行事を身にまとい、
体を張ってPRしているご当地キャラたちを紹介するコーナーです。
今回は、西ブロック(中国・四国・九州・沖縄)からピックアップ。

西ブロック

2015年3月19日生まれ。何事にも一生懸命で、人懐っこい。特技は誰とでも仲良くなれること。病院を訪問したり、役場の仕事を手伝ったりと色々な働き者。



みやき町イメージキャラクター

みやつきー

佐賀県みやき町

旧中原町・旧北茂安町・旧三根町の3町が合併したみやき町の10周年を機に誕生したキャラクター。町の魅力をアピールする目的でキャラクターを公募し、応募作品178点の中から選定委員会の審査で6作品を選出、最後は町民投票によって選ばれました。頭には、「調和」が花言葉の町花・コスモスの花飾りをつけています。胸には町章をデザインし、その町章をモチーフにした耳の色は、「発展・調和・健康」を表す緑色と、「文化・英知・歴史」を表す青色になっています。町内の様々なイベントに積極的に参加するほか、秋に咲くひまわりの「山田のひまわり園」にも出張します。ご当地マンホールにデザインされるなど、町の人気者「みやつきー」。愛くるしい笑顔で町のPR活動に励んでいます。

小値賀町マスコットキャラクター

ちかまるくん・はなちゃん

長崎県小値賀町



ちかまるくんは9月27日生まれの男の子、はなちゃんは8月15日生まれの女の子。ふたりとも、鹿のぬいぐるみを着ているだけで、4つ目のオバケではない。ふたりとも島の子どもたちが大好き。

小値賀町の魅力発信を担うマスコットキャラクターのデザインを公募し、2004年に誕生した「ちかまるくん」。名前は町名の「おぢか」から「ちか」を取り、人々と町の距離が「近まる」ようにとの願いを込めて付けられました。一方、「はなちゃん」は、2007年に「ちかまるくん」のパートナーとして誕生。花のような笑顔の小値賀の島いっしょいに咲かせたい、花のように小値賀の魅力を全国に届けたい、との思いから「はなちゃん」と名付けられました。ふたりとも、野崎島に住むキュウシュウジカがモチーフ。町の大きなイベントだけでなく、町内の子どもたちの誕生日会にも声がかかれば喜んでお祝いに駆け付けるのだとか。これからも、ふたり仲良く「ツチカ」「ハナト」と、特長のある語尾で、SNSを活用しながら小値賀町の魅力を発信していきます。

南大隅町PRキャラクター

みさきちゃん

鹿児島県南大隅町



佐多岬のハイビスカスが海中に落ちて、サンゴの精霊が宿って誕生。動きもゆるゆるののんびり屋さんだが、ごう見えて走れてジャンプも得意。佐多岬周辺でフカフカ漂うのが趣味。楽塩ソフトクリームとウツボの唐揚げが好物。

南大隅町のPRを担うキャラクターの公募を実施し、424通の作品の中から選ばれた「みさきちゃん」。身長2m、胸囲2mのまんまるふわふわボディが特徴です。頭には、佐多岬にある日本最古の灯台がのっけていて、ハイビスカスの花をあしらった、からだは海に浮かぶ島、白い手は黒潮の荒波をイメージしています。「パイナップル」「パッションフルーツ」「アボカド」など、町特産品のアピールもしていますが、海ゆかりのキャラクターとあって、特に佐多岬地域のコバルトブルーの海を楽しんでほしいと、半潜水型水中展望船「さたでい号」での周遊をおすすめしている「みさきちゃん」。一年中ハイビスカスが咲き誇る本土最南端の南大隅町の認知度アップのため、町内外のイベントやお祭などにも参加してPR活動に励んでいます。

次回は、東ブロック(北海道・東北・関東)からご紹介します

情 報

季節に拾う・新歳時記(6月)

小 牧 規 子 (ジャーナリスト)

● サクラランボ

「桜ん坊」が変化した名だという。桜の実の総称だが、一般にはセイヨウミザクラの果実を指す。日本には明治初期に渡来し、北海道に移植されたのが始まりだ。その後、東北地方にも広がり、各地で改良が重ねられた。冷涼な気候を好み、山形県が主産地となっている。

甘い果汁に加え、鮮やかな鮮紅色と黄色の配合がみずみずしく、6月の美味な果物として喜ばれている。佐藤錦、紅秀峰、紅てまりなど、さまざまな品種があり、一口で食べられる手ごろな形が愛らしい。手を加えずにそのまま食べるのが良い。以前は東北地方から遠い西日本では、傷みやすいサクラランボは手に入りにくかったが、低温輸送の技術が進み、今では手軽に食べられるようになった。

● 滝廉太郎(たき れんたろう)

『荒城の月』『箱根八里』『花』などで知られる作曲家。父が明治維新後の地方官を務め、神奈川県横浜市、富山県富山市、大分県竹田市などに移り住んだため、廉太郎も各地を転々とした。東京音楽学校でピアノと作曲を学んだ。音楽学校の本科を卒業後、ピアノや作曲を研究しながら、嘱託で授業の補助をしていた時、教科書『中学唱

歌』に収める曲の募集があり、廉太郎は『箱根八里』『荒城の月』『豊太郎』の3曲を応募。全てが当選した。1901年4月、日本人の音楽家として3人目となる留学生として、ドイツのライプチヒ音楽院に入学。だが、入学して数カ月で結核を発病。志半ばで帰国を余儀なくされた。1903年6月29日死去。23歳という若さだった。

● 夏越の祓(なごしのはらえ)

6月30日は「夏越の祓」。1年の折り返し点に当たるこの日、各地の神社では災厄をはらう神事が行われる。浅茅で作った大きな茅の輪をくぐったり、人の形に切った紙を水に流したりして、正月から半年間の罪やけがれを落とし、その後半年間を健やかに過ごせるように願う。

平安時代の『拾遺和歌集』には、夏越の祓を詠んだ歌が収められている。暑さが厳しい夏は、疫病や田畑の日照りなど心配事が多い。夏越の祓が長年続いてきた背景には、悪疫を除き、残り半年の健康や豊作を願う庶民の強い思いがあったからだろう。京都ではこの時期、「水無月」と名付けられた和菓子を食べる習慣もある。コロナ禍の今、夏越の祓を続けてきた先人たちに改めて思いをはせたい。

町村専用ページ「町村.com」をご覧ください

<http://www.zck.or.jp/choson/>

全国町村会では、全国の町村との連携を密にし、町村長と町村職員のみなさんの情報収集の利便性を向上させるため、町村専用ページ「町村.com」を開設しています。

「町村.com」では、全国町村会の活動状況や中央省庁などの政策情報を随時ご提供しているほか、全国の町村の先進的な取り組み事例をはじめ、各種統計資料など様々なデータも公表しています。

私どもは、「町村.com」が町村関係者にとって真に役立つホームページとなることを目指し、これからも充実をはかっていきたいと考えています。ご覧になったご感想・ご意見を、下記のメールアドレスにお寄せください。



kouhou@zck.or.jp

- ・「町村.com」は、町村関係者の方だけがご利用いただける専用ページです。ご覧になる際は、所定のパスワードが必要になります。
- ・ユーザー名とパスワードは、各町村にお知らせ済み(平成18年9月27日付)ですが、お問い合わせは、全国町村会広報部(kouhou@zck.or.jp)までお願いいたします。

随 想

「ほどヨイ!田舎」を
前進させます

しょうおう 水 嶋 淳 治
岡山県勝央町長

勝央町は、岡山県の北東部に位置し、昭和29年に一町四村が合併して誕生しました。面積は54・05km²、現在の人口は1・1万人ほど。その昔、町の中心部である勝間田地区は、大和と出雲の国を結ぶ出雲街道の宿場町・美作七宿のひとつとして栄えきました。その当時より自然豊かなのどかな農村地帯であり、農業が主要産業で稲作が主でした。農業生産の増

大を図るため、昭和42年度にスタートした国営開拓パイロット事業美作台地開発による開墾畑地(町内329ha)が、酪農業やもも・ぶどうの果樹、葉たばこ栽培などの経営規模を飛躍的に拡大させました。

更に、大きく町の産業構造に変化をもたらしたのが、地域振興整備公団が造成した内陸工業団地構想による勝央中核工業団地(当初の計画面積100haのインダストリアル・パークが、昭和54年に完成。その後、民間事業者と同公団の増設工事により現在は約160ha)です。その分譲開始と同時期、中国縦貫自動車道の工事が進む中、中四国・九州方面の生産、物流拠点として注目され、順調に企業が立地しました。現在、27社が操業、従業員約2,900人、工業出荷額約1,500億円で地域経済、地域振興に大きく寄与しています。そのことにより、農・工・商のバランスが取れた町づくりが進みました。結果、勝央町誕生後の最少人口であった昭和55年の10,382人から増加に転じ、平成7年には11,669人までになりました。その後、全国的にもそうですが、わが町も高齢化が加速し、人口は減少傾向です。しかし、18歳未満はどの

年齢においても105人ほどを維持し、子どもの人数が減少していません。子育て支援の充実やお母さんの居場所づくりなどが好評で、住みやすく子育てしやすい町との評価を得て、若い子育て世代の転入がその要因と考えられます。

勝央町が住みやすいとされるのは、「晴れの国おかやま」にあって、その中でも自然災害の極めて少ない地域であることもそのひとつです。安全・安心が求められる昨今、安全に穏やかに暮らせることのメリットが移住促進に大きく作用しています。そして、民間活力による分譲住宅や集合住宅の提供も好評です。また、私が町長に就任して以来、一貫して地域コミュニティの重要性とその強化に傾注しました。平成の合併をしなかつたことで逆に、住民の間にも「自分たちのことは自分たちでやるんだ」という協働の機運が芽生え、地域の一体感が育成され強まりました。そして、地方創生による転入・移住者に対する優遇措置に偏りすぎないよう、元々その地域に暮らし、その地域を守り育ててきた方たちへの心配りも大切にしています。私の地域振興、住民サービスに対するモットーのひとつに「忘れ物

をしない。置いてきぼりをしない。」があります。そうした取組により、新規就農者などの移住者に対しても温かく迎え入れ、協力し合う関係づくりが生まれています。移り住んでこられる方も何となく「ほどヨイ!田舎」の雰囲気や住みやすい匂いを感じておられるのかも知れません。

まちづくりのキャッチフレーズにも「ほどヨイ!田舎 エーガン勝央」を掲げて、協働のまちづくりを推進しています。因みに「ほどヨイ」の「ほ」は「ほっとできる暮らしと自然」。「ど」は「どきどきする出会い」の場。「ヨ」は「ヨチヨチ歩きからしっかり支援」。「イ」は「インフラばっちり」といった意味合いです。

勝央町は、コンパクトのなかに豊かな自然と文化が宿り、人情味に満ちたコミュニティがあり、子育て、教育、医療、介護、高齢者福祉、産業、生活の利便性、安全・安心など地域の総合力で他に引けを取らない町と自負しています。新型「コロナ」の早期収束を願いながら、今後とも「ほどヨイ!田舎」を前進させ、豊かで住みよいまちづくりを進めてまいります。

さまざまな「集いの場」を 演出いたします

東京でのイベントに最適な
絶好のロケーションを誇る全国町村会館。
かけがえのないひとときを、
上質なサービスでおもてなしいたします。

県人会など同郷者の集い、
同窓会、親睦会などの懇談会

観光PR、移住セミナー
職員採用試験などの説明会

職員旅行・家族旅行

広さと設備が多彩な大ホールと、3つの
会議室がございます。
会議・研修、パーティーなどに幅広くご利用
いただけます。



和・洋食のレストランも お気軽にご利用ください

全国町村会館には、
会議室・宴会場のほかに、
ふたつのレストランもございます。
お気軽にお立ち寄りください。



レストラン「ペルラン」



和食処「さいから」

客室のご案内	SINGLE ROOM シングル 119室	DOUBLE ROOM ダブル 12室	TWIN ROOM ツイン 18室

和室もございますのでお問い合わせください。
※市町村職員共済組合等の宿泊助成券がご利用いただけます。



ご予約・お問い合わせ

全国町村会館
TEL.03(3581)0471
FAX.03(3581)0220
〒100-0014 東京都千代田区永田町1丁目11番35号
ホームページアドレス <https://www.zck.or.jp/kaikan>

- 全国町村会館へのアクセス
- ・有楽町線・半蔵門線・南北線「永田町駅」3番出口徒歩1分
 - ・丸の内線・銀座線「赤坂見附駅」徒歩8分
 - ・タクシー東京駅から約20分



真夏の
アツい!!
運試し

サマー ジャンボ

1等前後賞合わせて
7億円

1等5億円、前後賞
各1億円

7 億円

当せんのチャンス広がる!

サマー ジャンボ

三二

5 千万円

1等前後賞合わせて5,000万円
1等3,000万円、前後賞
各1,000万円

PCやスマホで
ネット購入!



宝くじ公式サイト

<https://www.takarakuji-official.jp/>



この宝くじの収益金は、
市町村の明るく住みよい
まちづくりに使われます。

7月13日(火) 同時発売

発売期間 / 7月13日(火)~8月13日(金) 抽せん日 / 8月25日(水)

各1枚
300円

2021年市町村振興宝くじ

一般財団法人 全国市町村振興協会